

本学開設 60 周年を機に、 全学同窓会設立の運び！



同窓会長 中舎美津男

昭和 34 年度 英語英文科卒業（8 期生）

■はじめに

約 2 万名の教育学部同窓会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。それぞれの地にあつて、無くてはならない人としてご活躍のことと思います。日頃は、当同窓会に対し、温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

私たちの同窓会は、総務部を始め、事業部、組織部、広報部がそれぞれ当初の計画に基づき、着実にその歩みを続けています。概略につきましては、本会報にそのごく一端を掲載しました。ご一読のほど、よろしく願い申し上げます。

■母校の発展が本会の発展に連動

私は、いつも同窓会の発展・充実、母校の発展・充実と連動していることを強く実感しています。

幸い、母校は全国約 50 の教育学部の中でもトップランナーを目指した活躍がなされており、頼もしい限りであります。具体的には、平成 16 年度以降文部科学省による GP(good plan, good practice) が 6 つも採用されました。極めて少数しか採用されない GP が連続的に採用され、先進事例として他大学のモデルとなっています。中でも「質の高い教員養成推進のプログラム」によるアクトプラン(1 年生から 4 年生まで、毎年学生を教育現場に派遣し、段階を追って教員として必要な資質を身につかせようとするもの)は着々とその成果をあげております。

また、平成 17 年度には、全国 700 を超える国・公・私立大学の学長による「教育分野、研究分野の発展する可能性のある大学」の評価において、岐阜大学は、それぞれ 15 位と 22 位とになりました。

さらに、平成 20 年度からは、教育学研究科に新たに教職大学院課程(教職実践開発専攻)が設置され、即戦力となる教員の養成が鋭意実施されています。本会の会員も指導者として複数人採用され、活躍しています。ありがたいことです。

昨年度初めて実施されたオープンキャンパス共催事業の「教育学部同窓生の集い」が本年度も継続して開催されました。オープンキャンパスには約 1,000 名の高校生が直接来校し、授業や施設見学、本学の概要説明等を受けておりました。会員の皆様の中に受験生をお持ちの方は親子共々ご参加をお願い致します。



【オープンキャンパス 2008】

■ 本学開設 60 周年を機に、 全学同窓会設立の運び！

平成 16 年には、母校創立 130 周年を記念して、各種の大きな事業が実施されました。中でも、長良の旧校舎跡地に、26 トンもの大きなインド産の自然石による本体とフィンランド産の美しい石に沿革史を刻んだ記念碑が建立されました。



【岐阜大学教育学部同窓会記念碑】

平成 21 年 6 月には、岐阜大学は開設 60 周年を迎えます。この機に、岐阜大学及び各学部同窓会は、協力して全学同窓会連合会(仮称)設立に向けて検討をしております。

教育学部同窓会の目的の一つに「母校の発展に寄与する」があります。重なり合う部分を精査しながら、「地方国立大学のトップランナー」として、活力ある母校を支えるとともに、会員一人一人に具体的なメリットが実感できるような組織となることを願っています。

平成 16 年度からスタートした国立大学の独立法人化に続き、今後道州制等の行政区域の改革に伴い、国立系大学の再編成が予想される中、岐阜大学の足腰を強化することが喫緊の大問題です。同窓会が、大学をサポートする必然があります。このことのために、大学より会員全ての皆様のご意見やご要望などを伺うためのアンケート調査が予定されています。ご協力をお願いいたします。



■ インターネットで愛校心の継続・発展を！

年 1 回の会報だけでは、約 2 万名の同窓会員とのコミュニケーションを密にすることは困難であります。各学科・講座毎の単位同窓会を軸に、時々本学教育学部のホームページを覗いてみてください。私たちの同窓会のホームページもリンクしています。卒業生の愛校心の継続・充実には、インターネットは最適のツールであると思います。



【岐阜大学教育学部同窓会ホームページ】
<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~dousoukai/>

最近心に響いたことば…

凡庸な教師は、指示をする。

いい教師は、説明する。

優れた教師は、範となる。

偉大な教師は、心に灯をつける。

(アメリカの教育者 ウィリアム・ウォードの言葉)

■ おわりに

私たちの同窓会の発展が、本学の発展と連動していることを実感するとき、歴代の教育学部長様をはじめ、本学部の教職員各位、とりわけ本同窓会員で本学部在籍の先生方の熱きご指導と、それぞれの場で、直接・間接にご尽力賜っております多くの皆様に深く感謝申し上げます。



教育学部の現状と将来

教育学部長 江馬 諭

昭和49年度工学部卒業



平成20年4月より学部長に就任いたしました。専門は技術教育(機械工学, 技術科教育)です。新任のご挨拶を兼ねて, 教職大学院, 免許更新制および学士力の構築についてご報告させていただきます。

本年4月, 古田善伯前学部長(現岐阜大学理事), 岐阜県教育委員会, 岐阜市教育委員会および多くの関係者のご尽力により, 教職大学院(教職実践開発専攻)が設置されました。国内では4つの私立大学を含め19の大学に教職大学院が設置されたと聞いております。岐阜大学の教職大学院は, 学校改善コース, 授業開発コース, 教育臨床実践コース, 特別支援学校コースから成り立っております。教員スタッフは, 教育学, 教育心理学, 特別支援教育を専門とする教員(8名)と, 小・中・高等学校等での教職経験豊富な実務家教員(6人)から構成されております。入学定員は20名です。本年度は22名の院生をお迎えすることができました。

教職大学院では, 学校現場の実践や開発に即戦力として貢献する高度な教育専門職を養成することを目的としています。すなわち, 地域や学校の社会的なニーズ(岐阜県の学校教育全体の活性化や学校組織の改善ニーズなど)に応じて, 地域や学校に役立つ高度な教育専門職を輩出することを目的としています。現代の教育現場は, さまざまな課題に直面しています。学校評価, 学校経営計画, 危機管理, 校区との連携, 特別支援教育の実施, 学力向上, カリキュラム開発, 授業改善, 校内研修, 不登校対策, いじめ対策, 学級崩壊対策などです。教職大学院では, このような教育現場の日常で起こる実践課題を研究テーマとして扱います。また教職大学院では, これまでの修士論文とは異なり, 上述の実践課題を研究テーマとして探究し, 開発プランの成果を「開発実践報告書」としてまとめます。これらの実践を通して新しい学校づくりの有力な一員, 地域の中核, 学校の中堅としてのスクールリーダーを養成します。

教職大学院では, 46単位を習得することにより教職修士(専門職)の学位が授与されます。また各種の専修免許状を取得することができます。詳細は本学部のホームページに掲載されておりますのでご覧ください。

【教職大学院ホームページ】

(<http://www.ed.gifu-u.ac.jp/~kyoiku/kyoshoku/index.html>)

免許更新制については, 文部科学省のホームページにも掲載されておりますが, 21年4月から教員免許更新制が開始されます。すでにご存知の方も多いと思いますが, この更新制度では30時間以上の講習を受けることが義務となっています。現職の教員の場合, 免許取得後10年ごとにこの講習を受けることとなります。運用上最初は, 平成23年3月31日において, それぞれ35歳, 45歳, 55歳となる教員が講習を受けなければなりません。ペーパーティーチャーの場合は, 実際に教員になるとき(なるまでに)講習を受けなければなりません。教員にならなければ取得した免許は生

涯維持されます。これに対して、平成21年4月以降に卒業して免許を取得する学生の場合は、免許取得後10年毎に講習を受けることが義務となり、この講習を受けないと免許が更新されなくなります。

本学部では、今年の7月から8月にかけて免許更新予備講習(試行)を実施し、本番に向けて様々な準備をしている段階です。登録・管理システム、受講料、開講科目の数と時期など、まだまだ多くの課題を解決しなければなりません。少しずつ骨格が固まって来ました。現段階では以下のように実施できればと考えております。1日6時間の講習を1ユニットと考え、必須科目の講習(教育の最新事情に関する事項)を2日間、選択科目の講習(教科指導、生徒指導その他教育内容の充実に関する事項)を3日間受講していただきます。必須科目は2ユニットの連続ですが、選択科目はそれぞれ独立した3つのユニットとします。いずれのユニットにも試験があり、それに合格しなければなりません。選択科目には、小学校、中学校、高等学校の各教科に関する科目、幼稚園や特別支援学校に関する科目、教職大学院のところで述べましたが学校現場に見られる様々な課題に関する科目(児童・生徒の発達と理解、学校改善)などを開設しなければなりません。実施時期としては、学校が夏休みになる8月の平日を中心として、6月、7月、9月、10月の土日も予定しております。

さらに、岐阜県では毎年1,600名から2,000名の教員が講習を受けることになります。そこで、岐阜大学と県内の私立大学によるコンソーシアムを作り、この課題に対応していきます。当然、本学部は多くの受講生を引き受けることになると思います。指導的立場にある先生方にはこの講習の講師としてご協力をお願いできればと考えております。講習を受ける方にとっても講習を実施する教員にとっても大変な負担ですが、教育を見直していただく有益な機会になることを望んでおります。

学士力の構築とは、平成20年3月に中教審が「グローバル化する知識基盤社会の到来や少子化による人口減少と高等教育機関への進学率の高まりを受け、大学は入学、カリキュラム、卒業の3つについて方針を立て、卒業生の質を保証するシステムを作りなさい」という答申を行いました。これを教育学部に当てはめると、「卒業段階での到達目標(学習成果であり、教員としての能力)を明確に定め、1年次から4年次までに受講する様々な授業や実習において、能力がどのように身に

ついてきたかを確認しなさい」ということになります。同様の動きは、近年の大学設置基準の一部改定、大学院設置基準の一部改定、21年度に予定されている教育職員免許法の一部改定(教職実践演習の導入)などにもみられます。このような取り組みは本学部では未だ経験が無く、全く新しい試みであり、平成22年度から始まる6年間の中期目標・中期計画の中で達成しなければならないと考えております。またこの取り組みは、学部全体にかかわる大きな改革であり、教育方法や評価に関する新しい研究テーマでもあります。

以上、教職大学院、免許更新制および学士力の構築についてご説明させていただきました。本学部としてはこれからも教員養成と教員研修を充実させていきたいと考えております。同窓会には今までに多大なるご援助を頂いてまいりましたが、本学部の発展のために今後も一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

略歴

江馬諭先生は、昭和26年に岐阜県でお生まれになり、昭和49年に岐阜大学工学部を卒業され、昭和51年に岐阜大学大学院工学研究科修士課程を修了されました。昭和52年から岐阜大学教育学部助手に着任され、昭和61年に助教授、平成12年に教授とられました。その間、昭和55年名古屋大学で文部省内地研究員を務められ、昭和61年に工学博士号を取得されました。また、昭和62年には連合王国バーミンガム大学へ文部省在外研究員として留学されております。

平成20年4月に、教育学部長に就任されました。



平成20年

岐阜大学教育学部同窓会評議会報告

日時 平成20年5月31日 13時から
 場所 教育学部第一会議室
 出席者等 評議員名103名(内委任状出席79名),理事22名,役員28名
 会議 来賓として江馬教育学部長から御挨拶をいただいた。
 議事については議長として青山副会長を選出し,以下の事項について審議した。

- ① **平成19年度事業報告**
各部会から資料に基づき報告があり,これを承認した。
- ② **平成19年度決算報告**
平成19年度決算について総務部から報告があった。
- ③ **会計監査報告**
会計監査委員より会計監査の結果,予算の執行管理について適切な旨の報告があった。
審議の結果,原案通り平成19年度決算を承認した。
- ④ **次期同窓会会長選出について**
次期同窓会会長選出について会則に則り会長推挙委員の選出を行うこととした。
投票の結果推挙委員として
青山 勉 氏 松田 孝弘 氏 北島 幸彦 氏 宮本 英洋 氏
後藤 忠喜 氏 を選出した。
- ⑤ **平成20年度事業計画**
各部会から資料に基づき平成20年度計画が提案され,これを承認した。
- ⑥ **平成20年度予算審議**
平成20年度予算案の提案がありこれを承認した。
- ⑦ **その他**
岐阜大学同窓会連合会設立について検討経過について報告があった。設立趣意書案,会則案等の資料をもとに審議した結果大筋の方向として承認することとした。

平成19年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

<収入の部>

科目	決算金額
前年度繰越金	4,134,403
同窓会費	7,680,000
雑収入	20,823
合計	11,835,226

<支出の部>

科目	決算金額
運営費	2,595,955
庶務費	1,779,896
役員会費	234,623
同窓会リーフレット作成	581,436
組織活動費	560,840
名簿管理費	0
名簿作成助成費	60,840
同窓会入会式費	500,000
学部援助費	341,110
学部活動援助費	246,110
教育文化助成費	95,000
事業活動費	1,674,361
成果刊行費	797,790
会議費	674,325
事務費	202,246
広報活動費	2,129,424
会報印刷費	512,715
会報通信費	1,616,709
次年度繰越金	4,533,536
合計	11,835,226

●事業活動基金

<収入の部>

科目	決算金額
繰越金	45,252,380
利息	68,686
合計	45,321,066

<支出の部>

科目	決算金額
次年度繰越金	45,321,066
合計	45,321,066

●教育実践事業基金

<収入の部>

科目	決算金額
繰越金	4,986,532
利息	8,399
寄付金	100,000
合計	5,094,931

<支出の部>

科目	決算金額
教育実践論文顕彰費	195,000
次年度繰越金	4,899,931
合計	5,094,931

平成20年5月31日評議会で承認済み。

平成19年度

教育学部同窓会総務部会活動報告

第1回運営委員会

- 【日時】 平成19年4月21日
【場所】 教育学部第2会議室
【協議事項】 1. 平成18年度決算報告がありこれを承認した。
2. 平成19年度各部会活動計画の説明がありこれを承認した。
3. 平成19年度予算案について説明がありこれを承認した。

第2回運営委員会

- 【日時】 平成19年7月21日(土曜日) 17:30より
【場所】 ホテルグランヴェール岐山
【協議事項】 1. 平成19年度教育学部オープンキャンパス共催事業「教育学部同窓生の集い」実施について検討した。
2. 各部会から平成19年度部会活動計画と実施について報告があった。

教育学部同窓生の集い開催 (第3回運営委員会を兼ねる)

第1回教育学部同窓生の集いが教育学部オープンキャンパス共催事業として実施された。

- 【日時】 平成19年8月2日
【場所】 教育学部第一会議室
【参加者】 学部関係 学部長 副学部長 教学委員長 教職大学院設置準備委員
就職対策委員 教職インターン実施委員
講座等代表者
事務長他事務職員
同窓会関係 同窓会長他同窓会運営委員
その他一般会員20名

当日は学部長より教育学部の現状について説明があったほか、学部教員から会員の質問に答える形で学部の今後の方向について説明があった。同窓会会長からは、同窓会の使命と今後の活動について説明と理解が求められた。

全学同窓会設立検討委員会

- 【日時】 平成19年12月26日
【場所】 岐阜大学本部会議室
【出席者】 大学本部関係者、各学部同窓会代表者、教育学部同窓会からは中舎会長と岩田副会長が出席
【協議事項】 全学同窓会設立について大学側の原案に基づいて協議した。(別紙資料参照)

第4回運営委員会 (拡大)

- 【日時】 平成20年1月10日17:00より
【場所】 ホテルグランヴェール岐山
【協議事項】 1. 部会活動報告があった。
2. 全学同窓会設立に関して全学協議会での資料を基に説明がありこれを検討した。
【報告事項】 1. 学生の就職状況について報告があった。
2. その他

第5回運営委員会 (教育学部後援会との合同開催)

- 【日時】 平成20年4月19日 14時から
- 【場所】 教育学部第2会議室
- 【出席者】 後援会関係／浅井康行後援会会長, 中島総務係長(後援会書記)
同窓会関係／野村副会長, 青山副会長, 松田副会長, 岩田副会長, 江端事業部会長,
後藤総務部副会長, 辻事業部副会長, 臼井組織部副会長, 長屋
- 【協議事項】 会議に先立ち合同運営委員会開催の趣旨について総務部長から説明があった。
1. 教育学部同窓会活動報告
 - ①資料に基づいて平成19年度決算状況について説明がありこれを了承した。
 - ②同窓会理事会・評議会開催に当たっての日程について協議し, 5月14日に運営委員会, 5月31日に理事会・評議会を開催することとした。
 - ③各部会から活動報告があった。
 2. 平成19年度教育学部同窓会, 後援会活動状況及び予算執行状況について資料に基づき報告があった。引き続き平成20年度予算作成に関わっての意見調整がされた。その結果後援会, 同窓会の活動計画と予算措置について以下のように決した。

記

同窓会

1. 後援会負担分の学部援助費で直接学生に関わらない部分については同窓会で審議し同窓会の学部援助費として支出する。
2. 学部援助費(事務負担費)は廃止し学部援助費(事務援助費)に統合・節約する。
3. 広報活動及び広報誌の充実を含め今後検討する。

後援会

1. 後援会費は学生の教育活動, 就職支援など直接学生に還元する事項に集中特化し支出する。
2. 専門職大学院設置などにかかわり実習校での学習活動の増加に備え, 輪転機を岐阜市内の教育実習校10校に常設し維持管理を行う。平成20年度では印刷機更新引当金から不足する輪転機6台を購入する。
3. 教職リサーチ, 教育実習の手引き, 介護指導の手引き, 情報教育の手引き等については後援会で製作し, 後援会費納入者には無料配布する。
4. 就職対策事業については後援会が講師謝金, 打ち合わせなど積極的に対応し後援会費納入者は就職対策事業に無料で参加できることとする。
5. 教育実習及び就職支援に関わる非常勤職員の渉外費を積極的に位置づける。

以上

第6回運営委員会

- 【日時】 平成20年4月19日
- 【場所】 教育学部第一会議室
- 【協議事項】
1. 部会報告があった。
 2. 平成19年度決算について報告があった。
 3. 平成20年度予算編成について審議した。
 4. 平成20年度理事会・評議会進行について協議した。
 5. その他

第2回教育学部同窓生の集い開催(オープンキャンパス共催事業)

日時 平成20年8月4日
場所 教育学部第二会議室

今年は, 一般会員の参加者が少なく大変残念でした。来年からも教育学部同窓生の集いを継続して開催いたしますので, 4月以降同窓会ホームページをご覧ください, ぜひご参加下さい。



平成20年度岐阜大学同窓会役員

■会長

中舎 美津男 (S34 英語)

■副会長

野村 令子 (S34 家政)
 青山 勉 (S35 数学)
 松田 孝弘 (S36 地理)
 岩田 恵司 (S42 数学)

■幹事(◎部会長 ○副部会長)

総務部会(担当副会長 岩田恵司)

◎岩田 恵司 (S42 数学)
 ○後藤 忠喜 (S38 数学)
 田口 勝行 (S40 体育)
 高田 哲夫 (S41 数学)
 今井 亜湖 (H10 技術)

組織部会(担当副会長 野村 令子)

◎加藤 直樹 (S54 物理)
 ○臼井 敏雄 (S35 生物)
 岡田 紘夫 (S36 数学)
 吉田美美子 (S41 英語)
 安田 重彦 (S43 数学)

事業部会(担当副会長 松田 孝弘)

◎江端 雅司 (S37 史学)
 ○辻 泰秀 (S55 美術)
 宮本 英洋 (S41 地学)
 柴田 秀夫 (S44 体育)
 田口 和男 (S43 生物)

広報部会(担当副会長 青山 勉)

◎村瀬康一郎 (S53 数学)
 ○中島 勝之 (S41 国語)
 大塚 頼明 (S43 国語)
 松岡 博 (S43 物理)
 興戸 律子 (S54 数学)

監査

秋山 健 (S36 数学) 今井 眞弓 (S37 史学) 西村 覺良 (S39 史学)

評 議 員

大学系		
国文	吉永 康昭	H5
	鈴木 健一郎	H6
	富山 哲成	H8
	足立 直子	H8
	吉田 雪絵	H8
史学	小川 敏雄	S40
	丹羽 柳三	S42
	赤塚 邦芳	S43
	友田 康雄	S40
	西村 覺良	S39
法経	山本 讓	S48
	井森 宗吉	S51
	村井 俊之	S56
	坂野 隆	S58
	丸山 靖生	H3
地理	澤島 昌彦	S33
	松田 孝弘	S36
	小牧 寿	S45
	小林 直樹	S50
	豊島 博	S58
哲学	近藤 新八	S43
	柘植 卓伸	S52
	国定 幸敏	S53
	榎井 奈津子	H元
	奥村 直也	H5
数学	青山 勉	S35
	秋山 健	S36
	後藤 忠喜	S38
	岩田 恵司	S42
	宮脇 恭頭	S43
物理	安藤 隆	S44
	鈴木 雅史	S50
	奥田 好紀	S56
	若曾根 隆	S58
	堀部 昇	S61
化学	華井 章裕	S46
	森 社	S51
	佐藤 伸幸	S53
	白木 和雄	S59
	丹羽 敏朗	S47
生物	船戸 彰	S30
	森 英信	S34
	安藤 志郎	S44
	大野 伴和	S52
	渡辺 寛樹	H9

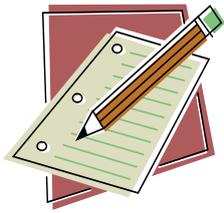
大学系		
地学	小栗 敬彦	S42
	山元 敏治	S45
	岩田 将之	S48
	大平 柳一	S49
	水谷 憲司	S55
音楽	三羽 幸夫	S38
	棚橋 弘	S49
	村下 香苗	S50
	杉本 公彦	S61
	三本木陽子	S51
美術	酒井 賢	S34
	高木 文夫	S35
	長谷川 清	S37
	國枝 俊介	S44
	安江 次郎	S50
体育	神谷 信子	S32
	永井 寛	S35
	中村 博巳	S39
	石子 裕朗	S45
	谷端 良夫	S55
技職	山名 忠	S36
	宮本 英洋	S39
	伏屋 敬介	S46
	高橋 忠明	S49
	吉田 竹虎	S63
家政	杉山 恵子	S48
	清水 優子	S50
	鷺見 智子	S62
	澤田真理子	H元
	久保 直子	H2
英語	古沢 哲男	S42
	高橋 克	S50
	山下 敦子	S60
	中村 美幸	S40
	深尾 雅人	S57
教育	加藤 芳憲	S33
	森川 士郎	S34
	古田 重行	S37
	国島 和憲	S43
	中村 正信	S43

師範系		
師範 男子	森 俊朗	S13
	宮川登喜夫	S14
	渡邊 啓市	S16
	中西 行雄	S17
	西脇 成紀	S20
	田口 謙介	S22
	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
	松岡 茂喜	S25
	森 直外	S26
師範 女子	苅谷かほる	S11
	富田 君江	S15
	高井 玉枝	S15
	大前 美子	S16
	田中 良泉	S17
	新井 規子	S18
	所 家子	S19
	鍛代 幸子	S20
	野中 和子	S20
	小倉三千子	S23
青年 師範	安藤 雅子	S24
	恩田 千束	S25
	神谷利一郎	S10
	棚橋 丙伍	S16
	横山 貞二	S18
	長柄千代子	S18
	岡崎 愿	S19
	村瀬 行雄	S20
	和田 敦子	S20
	安田 嗣朗	S21
大谷 昭子	S21	
山田 勲	S21	
青柳 すみ	S22	
内田 英夫	S23	
森 壽子	S23	
石田 幸彦	S24	
大野 幸子	S25	
服部 真六	S26	
乾 乃武子	S26	

理 事

大学系		
国文	曾我部領史	H8
史学	高木 秀之	S31
法経	大平 橘夫	S40
地理	澤島 昌彦	S33
哲学	谷本 龍馬	S50
数学	北島 幸彦	S36
物理	佐橋 正康	S27
化学	華井 章裕	S46
生物	野村 俊朗	S33
地学	小島 理生	S39
音楽	三羽 幸夫	S37
美術	石原 通男	S32
体育	奥村 収	S32
技職	山名 忠	S35
家政	谷村 三奈	S61
英語	中舎美津男	S34
教育	堀井 恕直	S34

師範系		
男師	宮脇 修	S24
	安藤 俊夫	S25
女師	安藤 雅子	S24
	内田 英夫	S23
青師	石田 幸彦	S24



平成19年度教育実践研究助成事業の報告

事業部長 江端 雅司
昭和37年度史学科卒業

本同窓会事業の大きな柱の一つである教育実践研究助成事業も、今年度で第23回を迎えた。毎年、6月に発刊する「教育実践研究入賞論文集」に、入賞者の論文概要や講評が掲載されているが、巻末には“栄誉を讃えて 歴代入賞者の記録”のページがある。第1回の昭和60年度の入賞者は、優秀賞30名、優良賞62名であった。現在のようない「最優秀賞1名・優秀賞9名・優良賞40名・新人賞20名」は第11回の平成8年度からである。それにしても、27頁に亘って23年間の歴代入賞者名が掲載されている。その重みをしみじみと感じる次第である。

今年度も、市町村教育委員会、教育事務所単位で審査をいただいた後、3月上旬、教育研修課で第2次審査会を行い、3月中旬には、最終審査会が開催された。その会には、教育研修課長と課長補佐、6教育事務所長と課長、岐阜県都市教育長会長・町村教育長会長及び岐阜県小中校長会長と県小・中校長会長が列席のもと、慎重且つ厳正に審査が行われた。岐阜県小中学校関係で、これだけのメンバーが一堂に会して審査する会には他にない。それだけ権威のある会であることを報告させていただく。

6月上旬には、『入賞論文集—第23集—』が発刊され、入賞者はもとより、県内の小中学校及び上記の教育委員会等に配付することができた。

1. 応募状況とその傾向

県内の教職員から1,453名、1,428編の論文の応募があった。これは、全教職員の12.1%の応募に当たる。内訳は、校長11名、教頭10名、教諭1,383名、養護教諭37名、栄養職員2名、事務職員7名、ALT等2名である。性別では、男性712名、女性741名、校種別では、小学校904名、中学校549名である。今年度もALTの応募があり、この事業がすべての教職員から幅広く応募されていることが裏付けられる。

年代別にみると、20代は553名、30代は495名、40代は307名、50代は94名である。特に、20代の過去4年間を見ると、平成16年度は390名で、19年度は553名が示すように応募者数が急増しており、20代の頑張り頼もしい限りである。

論文の領域については、1,428編の内、教科は1,013編で国語科、算数・数学科が多く、続いて社会科、理科の順で4教科で695編を占めた。4教科以外では、保体、英語が多かった。他の領域では、学級経営、特別支援教育の応募が目立った。

2. 審査会の動向

審査の観点は、

- (1) 教育の今日的な課題をふまえ解決の方向が明確になっているか。
- (2) 目標、計画、指導、評価の一体化が図られているか。
- (3) 児童生徒の成長や変容の姿が表れているか。
- (4) 創造性・妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。
- (5) 教育実践・研究論文として明確な表記であるか。

の5点で、例年同様、厳正に審査が行われた。

最優秀賞は、瑞穂市立本田小学校の上水流弘美教諭の論文〈家庭科〉「豊かな心と実践力を育てる家庭科教育～質の高い学びを達成感につなげて～」に決定した。

上水流弘美教諭の論文は、社会や家庭が多様化している今日において、家族の一員として家庭生活の在り方を考

え、自立的に生きる基礎を培う家庭科教育こそが「生きる力」の育成につながるという強い信念を持って、小学校家庭科教育の実践に取り組み、質の高いものである。また、継続的な実践を足場にしてまとめられた点が高く評価できる。特に、「目標・計画・指導評価の一体化」、「個に応じた指導の充実」、「連携指導の充実」の3点において優れている。以上のことから、家庭科教育が目指す家族の一員として生活を工夫しようとする実践的態度が児童に身に付き、児童にはそのことが自信となり、進んで生活に生かしていけるようになったことが、研究として明らかにされた実践論文である。

3月に入り、2回の審査会において、本教育実践研究事業が教員の資質向上に寄与していることに対する賞賛の言葉や、論文が10頁となって分かりやすく、レベルの高い優れた論文が多くなった等々の意見が出された。

また、「昭和60年度第1回の優秀賞」受賞の柘植良雄先生が今回、最終審査会に可茂教育事務所長として参加された。先生は、「論文を書くということは、ただ実践の結果をまとめるということではない。子供と正対した時から、“これで子供と勝負しよう”とする意図的な試みをもって学級をスタートし、その試みの過程と結果をまとめるということで、それこそが実践論文を書く上で基本となる大切なことだと思っている。試みのある実践を通して子供を育てていこうとされた先生方がこれだけ多くおられることに感動したし、また感謝の気持ちを持った。」と、実感を込めて述べられた。目標を掲げてその実現に向けて努力された1,453名の教職員の方々に心から敬意を表したい。その他、次の2点を付け加える。

- 多くの論文の主題具現の側面に、「ともに学び合う集団づくり」という視点がある。これは岐阜県教育の財産である。岐阜県では、20年以上前から積極的な生徒指導を推し進めているし、生活指導の徹底が生徒の落ち着きを促しており、「学力向上のカギ」として子どもの日常の人間関係の醸成や教師のチーム力を大切にしたい経営等に力を入れている。教育の先進県として今後も大切にして、児童生徒の育成に励みたい。
- 可茂地区から栄養職員による「食の指導」を中心とした素晴らしい実践が提出されたが、資格条件に該当しないため、郡での表彰にとどまったことや、新人賞の受賞条件について、実施要綱に記載されていないことの問題点を教育研修課から指摘を受けた。早速、事業部会を開き、資格条件を「常勤の職員」とし、平成20年度から栄養職員にも門戸を開くことや、新人賞の年数は同じであるが、作品によっては優秀賞等も受賞できるよう、実施要綱の一部改正をしたことを最終審査会に報告した。平成20年度の実施要綱を参照されたい。

3. 新たなスタート

新しい「実施要綱」となって、平成20年度は4年目となる。上述のようにまた、新たな装いでスタートする。

ここで、創刊号の遠藤敏夫会長の挨拶文を引用させていただく。

「(前略)この同窓会の事業は、今後も継続的に行い発展させて、先生方のお役にたきたいものとの願いをもちます。岐阜県教育界に、地道でかつ意欲的な教育活動が広がり、深まることを何よりの願いとして、今後、一人でも多くの方が応募していただきますようお願いいたします。(後略)」

23年が経過するが、遠藤会長の思いが今日も脈々と受け継がれている。“目標は創造、反省は向上”の精神で、奮ってご応募くださるようお願いしたい。

最後になりましたが、『教育実践研究入賞論文集—第23集—』を発刊するに当たり、岐阜県教育委員会をはじめ市町村教育委員会、岐阜県小中学校校長会のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

なお、平成10年度から今日に至るまで、当事業推進のため、財団法人岐阜県教職員互助会から教育文化助成金をいただいていることを追記します。





教育実践研究論文受賞者一覧

平成19年度 第23回

最優秀賞(1編)

瑞穂市・本田小学校 上水流 弘美 豊かな心と実践力を育てる家庭科教育
～質の高い学びを達成感につなげて～ (家庭)

優秀賞(9編)

岐阜市・三輪北小学校	河村 泰代	生きることの素晴らしさを実感し、生命を尊重することができる子の育成 ～理科を中核として育む、発達段階に応じた生命観の指導の在り方～ (理科)
岐阜市・長良中学校	坂野 美恵	自己と家庭のつながりを重視し、より豊かな生活を創造する子の育成 ～「子どもの成長」と「食育」を関連づけた指導を通して～ (技術・家庭)
大垣市・東小学校	中田 由佳	的確に読み取る力を付けるための評価規準を明確にした指導の工夫 ～自らの学びの質を高める「練り合い」のある社会科授業～ (国語)
揖斐川町・揖斐川中学校	山本 久美子	豊かな自己表現力につながる指導方法の工夫改善 ～語彙や語順・文構造の確かな定着とまとまりのある英文を構成する力を付ける指導の在り方～ (英語)
美濃市・美濃小学校	澤田 小百合	入門期における作文・読書感想文指導の在り方 ～「確かに」書く力と「豊かに」書く力を付ける指導の工夫～ (国語)
美濃加茂市・太田小学校	山田 陽子	生活に生きて働く力を身に付ける学習指導の在り方 ～身に付けた技能を活用できる子をめざして～ (家庭)
多治見市・養正小学校	岡 龍郎	豊かに発想を広げて粘り強く取り組み、自分の願いを表すことができる子 (図画工作)
瑞浪市・瑞浪小学校	藤井 志保	自分が自然界全てのものとつながり、かかわり合って生きていることに気付き、 感動することのできる児童の育成 ～第6学年A領域の指導の在り方～ (理科)
高山市・北小学校	平澤 啓介	子どもの問題解決の能力を育て、科学的な見方や考え方を養う授業 ～子どもが納得するまで追究できる学習活動を位置付けることを通して～ (理科)

優良賞(40編)

岐阜市・長良小学校	馬場 雅也	要旨を正確に読み取る子が育つ説明文指導 (国語)
岐阜市・岐阜養護学校	野田 剛志	よりよい生活習慣をめざして～排泄指導を通して～ (特別支援)
岐阜市・岐阜養護学校	藤井 大昌	続「見え方、感じ方」を育てる活動 ～「感覚統合法」を基にした感覚遊びのモデル化を通して～ (特別支援)
羽島市・堀津小学校	吉田 圭子	筋道を立てて考え、進んで表現できる子を目指して ～生き生きと考えを伝え合うための指導・援助の在り方～ (算数)
羽島市・足近小学校	栗野 真記	意欲的に働きかけ、科学的な見方や考え方を創り出していく理科学習 ～「わかった、理科っておもしろい！」と問い続ける授業をめざして～ (理科)
各務原市・鶴沼第二小学校	本間 祐一	歴史上の人物の願いや時代背景を、より広い視野から深めて考え、 社会的現象を追究する力を育てる社会科学習 (社会)
各務原市・鶴沼第三小学校	足立 美穂	基礎・基本を確実に身に付け、伸びの実感を味わう子の育成 ～確かで豊かな表現のできる国語科学習の在り方～ (国語)
各務原市・鶴沼第三小学校	松本 優	身の回りの事象や歴史上の人々の生き方について問題意識をもって追究し、 社会的な見方・考え方を高める子の育成 (社会)
本巣市・本巣中学校	廣瀬 功二	主体的に学び続ける力をはぐくむ理科学習 ～科学的な見方や考え方をはぐくみ、その高まりに喜びや価値を感じることができる授業の創造～ (理科)
山県市・伊自良北小学校	土井 恵子	生きる力を育む特別支援の在り方 ～通常学級における広汎性発達障害Aさんの指導を通して～ (特別支援)
山県市・高富中学校	川島 誠	主体的に自然を追究する力の育成～科学的な見方や考え方を深めるための学習活動～ (道徳)
笠松町・笠松小学校	榎井 奈津子	自己を見つめ、自らよりよい生き方を求め、実践する児童を育む道徳教育 ～「子ども理解」を生かした心に響く道徳の時間～ (理科)

北方町・北方中学校	堀 貴美	主体的に自己表現できる生徒の育成 ～コミュニケーションの基礎の定着を図る指導の工夫～ (英語)
大垣市・興文小学校	中島 勝義	意欲的に課題や願いを追究し、主体的に学習に取り組む子の育成V ～科学的なものの見方や考え方を高める理科学習の在り方～ (理科)
大垣市・江東小学校	幅 壽美子	日本の学校に適應し、生き生きと生活できる外国人児童の育成 ～ブラジル人児童A子の言葉と心の成長を願って～ (その他)
大垣市・江東小学校 大垣市・江東幼稚園	齋藤 三奈 渡邊 麻友美	自立心を育むための保幼小連携の在り方 (その他)
大垣市・西部中学校	神保 絵美子	「確かな学力」が身につく社会科学習の工夫 ～自分の学習を自覚し、考え、学び合う子どもをめざして～ (社会)
海津市・吉里小学校	中川 秀一	学びあう力を育てる算数の授業づくり (算数)
輪之内町・福東小学校	西野 美佳	確実に読み取り、自分の考えを深め、表現しようとする子の育成 ～文学的文章(物語文)の領域を通して～ (国語)
神戸町・神戸中学校	水野 幸子	たくましく生きる力を育む授業づくり ～生活単元学習における実践を通して～ (特別支援)
揖斐川町・谷汲中学校	阪野 きよみ	不登校生徒ゼロを目指して ～養護教諭の専門性と小規模校のよさを生かした教育相談活動の在り方～ (教育相談)
関市・安桜小学校	堀口 涼子	対象とのかかわりを深め、気付きの質を高める生活科学習の創造 ～科学的な見方・考え方の基礎を養うことを視野に入れながら～ (生活)
関市・瀬尻小学校	山田 真樹	子どもの生活から生まれる生活単元学習の単元づくり ～A児のコミュニケーション能力の育成を中心に～ (特別支援)
関市・桜ヶ丘中学校	増子 光昭	「おもい」を具体化して意欲的に課題を解決し製作に取り組む生徒を育てる指導の一試み ～プロジェクト学習による、1学年題材「アイデア木製品の設計と製作」をとおして～ (技術)
郡上市・高鷲小学校	小椋 徹二	自ら学ぶ子を育てる算数科学習のあり方 ～既習事項を生かして学び、「できた」「わかった」という喜びが味わえる算数科授業の創造～ (算数)
美濃加茂市・太田小学校	高橋 泰行	仲間との共通の目的に向かって、自分の力を発揮できる子が育つ指導 ～相手を喜ばせることを目的とした活動の展開と発展を通して～ (特別支援)
可見市・今渡北小学校	山田 真紀	大地のつくりを実感できる授業を目指して ～第6学年「大地のつくりと変化」での実践から～ (理科)
可見市・御嵩町中学校組合立 共和中学校	大本 智美	「生徒が変わる」「学級が変わる」道徳教育の実践 ～生徒の願いに指針を与える道徳の時間と温かい人間関係を築く学級経営の工夫を通して～ (道徳)
東白川村・東白川中学校	藤井 麻衣子	日本の伝統音楽のよさを味わい意欲的に表現することができる生徒の育成 (音楽)
多治見市・陶都中学校	加知 昌彦	一人一人が言語の力を身に付けていく国語科学習 (国語)
多治見市・多治見中学校	岡田 海保	正しく、まとまりのある5文程度の英語で生き生きと自己表現できる生徒 ～2年生 Speaking 領域2単元における指導の工夫を通して～ (英語)
瑞浪市・瑞浪小学校	小木 曾佳子	実験を通して科学的に追究する喜びを味わい、自然現象に驚きや感動をもつ子をめざして (理科)
瑞浪市・土岐小学校	遠藤 晶子	数理的に追究できる子～仲間との学び合いを通して～ (算数)
恵那市・東野小学校	鈴木 由美子	事象を見つめ深く考える子をめざして ～見学・調査活動を基盤に社会的な見方・考え方を深める話し合いの工夫～ (社会)
恵那市・山岡中学校	加藤 高祥	社会的事象を「多面的・多角的」に考察し、公正に判断できる生徒 ～自らの見方や考え方を深める学習指導を通して～ (社会)
中津川市・南小学校	舘 林 美 和	進んで学ぶ子の育成 ～課題を意識して運動する子をめざして～ (体育)
高山市・栃尾小学校	山本 智子	言葉にひたり、想いを深める国語の授業づくり ～読むこと領域を軸にして～ (国語)
飛騨市・河合中学校	高木 直子	「話し合いの方向性をとらえて、的確に話すことができる力」の育成 ～パネルディスカッションを通して～ (国語)
飛騨市・神岡中学校	下嶋 健児	生徒が意欲をもち、根拠を明らかにして課題を追究する社会科学習 ～追究意欲を高める課題設定のあり方、社会的なものの見方・考え方を育む学び方や交流活動～(社会)
下呂市・下呂小学校	武田 淳次	今、「社会科」に何ができるのか？ ～児童による授業評価、感想から社会科の存在意義を考える～ (社会)

お詫び

会員の皆様にお届けしました同窓会報 No.14 (11頁)の「教育実践研究論文受賞者一覧」で、優良賞40編のうち、20編が欠落するという誤りがございました。謹んでお詫び申し上げますとともに、訂正させていただきます。

新人賞(20編)

岐阜市・長良小学校	岩田 恭子	調整力を高める障がいのある子の体育科学習の在り方 (特別支援)
羽島市・中央小学校	渡会 あゆみ	児童が「問う」算数科学習の構築 ～仲間との関わりの中で、自分の見方・考え方を高める児童をめざして～ (算数)
山県市・美山中学校	矢口 幸喜子	目的意識をもった探求活動の充実 ～2年生理科「電流とその利用」「化学変化と原子・分子」の授業実践を通して～ (理科)
北方町・北方南小学校	坂本 恵子	創って踊る楽しさや喜びを味わう表現運動の授業の創造 ～5年生「ポップコーン」の表現運動の実践を通して～ (体育)
大垣市・東中学校	澤村 秀彦	理科で「読解力」を高めるための指導のあり方 ～学び方や単位の学習内容の見通しを大切にした指導を求めて～ (理科)
海津市・養南中学校	長屋 香澄	歯・口腔の健康づくりに関心を持ち、主体的に取り組む生徒の育成 ～保健室からのアプローチ～ (健康安全)
関ヶ原町・関ヶ原南小学校	松井 友紀	「心身ともによく、健康に生きる子」をめざして ～健康価値に気づき、一人一人の心に響く豊かな保健学習の追究～ (健康安全)
関市・安桜小学校	水野 昭美	社会的事象に対する見方・考え方が深まる社会科学習の創造 ～体験的な活動を取り入れ、人物の思いに迫りながら～ (社会)
郡上市・八幡中学校	田中 美江子	主体的に学ぶ生徒を育てる美術科指導 ～「わかった」「できた」「やってよかった」を生み出す授業づくり～ (美術)
美濃加茂市・加茂野小学校	下川 舞子	問題解決の能力を働かせ、仲間とともに科学的に追究する子を育てる指導のあり方 (理科)
可児市・桜ヶ丘小学校	前田 知美	家庭との関わりの中で、自らの生活を創り出す子の育成 ～すごい! できた! ありがとう! の感動のある授業をめざして～ (家庭)
富加町・富加小学校	河野 純子	主体的に追究し、最後までやり抜く子をめざして ～思いや考えを進んで伝え合おうとする意欲を高める英語活動の在り方～ (総合)
御嵩町・上之郷小学校	内藤 知恵	確かな言語能力を身に付け、豊かに読み深める子の育成 ～生き生きと自分の言葉で表現できる子をめざして～ (国語)
多治見市・脇之島小学校	古田 伸二	道徳的価値の自覚を深め、豊かな心で人と関わることができる子の育成 ～行事や総合的な学習の時間との関連を図った計画的、発展的な道徳教育の実践を通して～ (道徳)
土岐市・泉小学校	星野 友多	よりよい仲間関係を自ら育む学級づくり ～一年生と四年生の学級活動を通して～ (特活)
土岐市・妻木小学校	鈴木 佑実	仲間と学び合い、自分の考えを広げ深める「満足授業」を求めて ～6年生国語科「文学教材」における指導を通して～ (国語)
恵那市・東野小学校	横 関 慶	粘り強く製作し、満足さを追求していけることができる児童 ～「みる」ことで得たものを自在に表現する児童を目指して～ (図画工作)
中津川市・坂本小学校	森川 陽子	楽しさを感じることができる説明文の学習 ～児童が文章の内容と資料の情報とを関係付け、正しく説明文を読みとるための工夫～ (国語)
飛騨市・古川小学校	都竹 由梨	自分の思いを豊かに表現できる子の育成 ～国語科「書くこと」を通して～ (国語)
下呂市・東第一小学校	田口 智洋	全員ができるようになる台上前転の指導過程の工夫 ～台上前転における効果的な指導の在り方を求めて～ (体育)



●●●●●●●●●● ACT 支援室たより ●●●●●●●●●●

田口和男 安田重彦 大塚頼明

昭和43年度生物地学科(生物) 数学科 国語国文科

2年目を迎えたACT支援室,知名度(?)は上がって,来室する学生が多くなり,張り合いを感じています。

2008年度新入生の詠める歌 抄 (5.9 トライアルのガイダンスの際に)

幼き日教師になると夢描き その夢今も私は目指す	中学の恩師のようになりたくて 教師目指して日々努力する	師を目指し育み続けた夢の花 蕾開けよ大輪の花	星のように輝き放て子供らよ みんなで一緒に星座を描こう	生徒にもどんな人にも慕われる そんな教師に私はなりたい	もう来週いよいよ始まるトライアル たくさん見たいな子どもの笑顔	トライアル不安はもちろんあるけれど やる気を出してさあがんばろうぞ
----------------------------	--------------------------------	---------------------------	--------------------------------	--------------------------------	------------------------------------	--------------------------------------



1年生 トライアル 休み時間,子どもと鬼ごっこしている学生がフルタイム走り詰めなのを見て,若さのすばらしさを改めて思いました。

2年生 リサーチ 身の丈豊かな学生が,子どもが話しかけるとさっとしゃがんで目線を合わせて会話する姿がありました。頼もしい!心の目線もきっと大丈夫・・・

3年生 プラクティス 自分が教員として進むかどうか,教員に向いているかどうかをこの実習に全力投球して考えるという学生がたくさんいます。ACT支援室の私たちも2年目を迎え,面識がかなりできてきたのか,実習先を訪問すると笑顔を交わせる場面が多くなりました。

4年生 インターン いくつかの講座の学生がいろいろな日程で活動していますので実習先で顔を合わせる率は高くありませんが,お世話になっている校長先生方から,「ACTプランで積み上げている実習の経験を活かして,よい活動をしています」とのお言葉をいただくことがほとんどで,気を引き締めつつ喜んでおります。



希望に燃えて後に続く後輩を,同窓会の皆様それぞれの立場からお励まし,お力添えいただきますよう,お願いいたします。

私たち三人も日々学びつつ,さらに内容のある働きが出来るように励みます。

岐阜大学においでの際は,教育学部3階のACT支援室にどうぞお立ち寄りください。

ACT支援室 電話:058-293-2319
E-mail アドレス:大塚 pt41118335@gifu-u.ac.jp 田口 pt41118317@gifu-u.ac.jp
安田 pt41118326@gifu-u.ac.jp

教員をめざす
皆さんへ

子どもたちの笑顔に支えられて

美濃加茂市立加茂野小学校 下川 舞子

平成7年度理科教育(物理)卒

3年前に本採用として教壇に立ったときに、「一人一人が大切にされ、毎日みんなが元気で明るく生活できる学級をつくりたい」という願いを強く持って、私の教員生活がスタートしました。初めて出会った子どもたちの目は、きらきらと希望に満ちあふれていて、「よし、この子たちのためにがんばるぞ!」と、たくさんのエネルギーをもらったことを、今でも鮮明に覚えています。

この3年間は、失敗を恐れず子どもと真剣に向き合いました。その中で、多くの失敗や苦難も経験しました。そのたびに悩み、苦しみ、そして子どもに申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。そんなときに支えとなってくれたのが、周りの先生や保護者の方々、そして何よりも子どもたちの笑顔でした。

2年目、小学校3年生の学級担任をしたときのことです。2学期から、突然教室に入れなくなった児童がいました。最初は、なんとか教室に来てほしいという思いから、その児童を教室に誘うことから始めました。しかし、こちらが誘えば誘うほど、その児童は教室に入ることを拒むようになりました。そのような状況の中、私が最も強く気づかされたことは、『私は3年2組の学級担任である』という当たり前のことでした。そして、ときには保護者の協力を得、ときには他の先生にTTに入ってもらいながら、だんだん学級全体へと目が向けられるようになりました。私は毎日、少しでもその児童と関わる時間を持ち、「先生はあなたの味方だよ、みんなもあなたを待っているよ。」というメッセージを送り続けました。そして、1日の中で何時間かは、教室で学習することもできるようになりました。

そんな経験をした2年間でしたが、今でも思い出すのが、子どもたちの明るい笑顔です。「いつも教室で待っていてくれる子どもたちがいる」そんな思いで、私も元気をもらい、笑顔で毎日を過ごすことができたと思います。そして、1年が終わり、ある保護者の方から、「先生のおかげでうちの子どもは成長できた。」という言葉をいただいたときには、本当にその1年間で報われたようで、胸がいっぱいになりました。

子どもたちからもらったたくさんの笑顔、いつか私も、『笑顔で人の心を動かせる教師』になりたいと思います。



教員をめざす
皆さんへ

教師として「幸せだな」と感じるとき

～心の通じ合いを求めて～

大垣市立東中学校 澤村 秀彦

平成14年度 理科教育(地学) 卒

教師になって今年で6年目。私は現在、中学3年生の担任をさせていただいています。教師として「幸せだな」と感じるとき、それは、「生徒と心が通じ合ったとき」です。最近味わったエピソードを紹介します。

中学3年生にとって義務教育最後となる体育祭を控え、学級の生徒たちと共に掲げた願いは「全員で創る」というものでした。しかし、私が担任をしている学級には生徒指導面で配慮を要し、なかなか登校できないS男という生徒がいます。このS男も含めた学級全員で体育祭に臨みたいという学級の願いを受け、生徒も担任である私も、毎日電話をかけた家庭訪問をしたりしました。はじめは「めんどくせえ。嫌だ。」と言っていたS男も次第に登校するようになり、体育祭当日は朝から参加することができました。

しかし、学級対抗種目の直前になったその時、事件は起こりました。気分には浮き沈みのあるT男が突然、「競技には出たくない」と言い出したのです。私がT男をなだめていると、異変に気付いた生徒が何人も駆け寄ってきました。そして口々に、「何でや?」「お前の力が必要なんやて。一緒にやろうや!」と言い始めました。その中にはS男の姿もありました。S男は「こんな俺でも頑張るとるやろ?これ以上、みんなや先生に悲しい思いをさせるなよ!」「みんなで作るんじゃねえのかよ。」と初めて見るくらいの真剣な表情で訴えかけました。この瞬間、「生徒や私の心がS男と通じ合った」と感じ、涙がでてきました。体育祭が終わると、生徒はS男に駆け寄り、「言ってくれてありがとな。」と声をかけていました。私も「本当に嬉しかったよ。ありがとう。」と言いました。S男は「別に。」と言っていました。その表情は穏やかなものでした。T男も後に「あの時はごめん。」と言いに来ました。

ここで紹介したエピソードは1年間の学級のあゆみの中のほんの1ページに過ぎません。どれだけ手を打っても報われないときも当然のようにあります。しかし、生徒の記憶には絶対に残っていきます。そんな貴重な瞬間を生徒と共に味わうことこそが、私にとっての「幸せ」であり、教師としての魅力ではないでしょうか。これからも、「生徒との心の通じ合い」を求め、生徒の成長を共に喜び、共に成長できる教師を目指していきたく願っています。





学生の就職状況について

教育指導員 後藤 忠喜

昭和38年度数学科卒業

1 教員採用の状況

本学部は教員養成を目的として設置されており、教師を目指す学生の就職状況が学部の評価と密接に関わってきます。ここ数年、教員の退職者の増加に伴い教員採用の状況は、徐々に良くなりつつあります。(但し、児童・生徒の減少等により、退職者の増加ほどには新規採用教員の増加が望めないのが現状です)

岐阜県では小・中・高・特支ともに結構倍率は高かったのですが、現役受験生の合格率は良い結果を出しています。しかし、わが教育学部の岐阜県全体に占める新規教員採用数が意外と少ないのです。その理由として、

- ①教員志望の学生が168名(教採一次受験者数)と、全体の62.7%にとどまっていること。
- ②岐阜県受験者数の減少(岐阜県受験者数は112名)
- ③中学校・高等学校の専門科目がやや弱いと思われること。

などが挙げられます。

学部では、教育実践現場での実習体験に基づいた「アクトプランカリキュラム」を平成17年度から本格実施しています。現場での経験が今後教員採用者数の増加に繋がることを期待する一方、現役生あるいは講師をしている既卒者への同窓生各位の一層のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



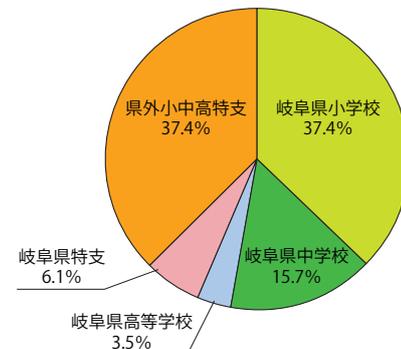
【模擬集団討議(教採一次対応)】

2 学部生・院生の平成20年度実施教員採用試験合格状況

	岐 阜 県				県外計
	小学校	中学校	高等学校	特別支援	
学部生	35	14	2	7	38
大学院生	8	4	2	0	5
合計	43	18	4	7	43

数字は合格者数(名)。延べ120名が合格でした。

合格者の学部生・大学院生の校種及び県内外比率



尚、教員志望者で惜しくも採用試験不合格の学生には、来年度の就職及び平成21年度の採用試験に向けて就職対策委員会・学部事務・教育指導担当講師及びACT支援室の臨床実践講師が、学生のための指導体制を整え、支援しています。

3 既卒者の教員採用試験結果について

臨時的任用等で岐阜県に採用されている既卒者で、岐阜県の教員採用試験を受験した方は142名です。内合格者は小学校26名、中学校8名、高等学校6名、特別支援学校8名で、合計48名でした。

まだまだ既卒者で教師を目指して頑張っている方が皆様のまわりにおられることと思います。是非是非ご支援をよろしくお願いいたします。



【模擬集団討議(教採二次対応)】

学生の進路相談
随時受付

教育学部本館1階東奥の「進路相談室」で後藤忠喜、吉田芙美子の2名が進路相談を行っています。

月・火・水・金曜日の10:00~16:00

現役・OBを問わず、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

各同窓会の活動

国語 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 遠山健二)

国語科卒業生の皆さんの謝恩会を、同窓会として少しでも支援させていただいています。

同窓会としての活動は特に行っていませんが、同窓会員の方々が日々研鑽を積み、岐阜県の国語科教育の発展に努めておられることを見聞し、喜びつつ励んでおります。

史学 (事務局 岐阜市加納小学校 堀 貴嗣)

(1) 史明会総会

[期日] 平成 20 年 8 月 17 日 (日)

[場所] 岐阜会館

① 総 会

会長挨拶、事業報告・計画、会計報告

② 講 演

「戦場の人狩り」

講師 大垣市史編纂室長 清水 進 先生

- ・ 雑兵の人狩り
- ・ 郷民の反抗
- ・ 戦争奴隷の行方
- ・ 戦場と雑兵たち
- ・ 朝鮮出兵
- ・ 人狩りの禁止
- ・ 関ヶ原の戦いと人狩り

③ 懇親会

地理 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 奥村 雅人)

(1) 第 34 回同窓会「濃飛の会」

第 40 回生 (代表 渡辺 佳弘) が担当

[期日] 平成 20 年 8 月 2 日 (土)

[会場] 太田宿中山道会館

① 総 会

- ・ 開会の言葉
- ・ 実行委員のあいさつ
- ・ 参加者の自己紹介
- ・ 恩師の先生のお話
- ・ 次回 41 回生代表の話

② 学習会

「美濃加茂市と多文化共生」

講師：大里 誠治 先生 (美濃加茂市役所)

講師：金城エジウソン セイエイ 先生

(2) 次回活動予定 平成 21 年 8 月 1 日 (土)

第 41 回生 (代表 各務 至) が担当

数学 (事務局 岐阜市立加納中学校 岩井隆史)

(1) 数学科同窓会名簿「わしょう」の改訂

(2) 今後の活動予定

- ・ 数学科卒業予定者に対して、数学科同窓会「わしょう会」の組織、規約等についての説明会を行う。(平成 21 年 2 月予定)
- ・ 運営委員会を行い、来年度の計画を立案

物理 (事務局 白川町立黒川中学校 鈴木雅史)

物理学教室並びに物理科同窓会共催で、小林正典教授ご退官記念事業を下記のとおり実施しました。

記

[期日] 平成 20 年 2 月 10 日 (日) 9:00 ~ 21:00

[内容]

(1) 卒論発表会

教育学部棟にて、13 名の修士論文・卒業論文発表会があり、学生はもちろん、卒業生 (同窓会) も参加しました。

(2) 記念講演会

同じく教育学部棟にて、小林正典教授の記念公講演がありました。小林教授は自らの研究の一端を紹介くださり、参会者は、その内容を学ぶと共に研究者としての情熱を感じさせていただきました。

(3) 記念パーティ

ホテルグランヴェール岐山にて開催。小林教授が岐阜大学においでになった 1972 年以後の卒業生の 2 割に近い 80 名の参加があり、たいへん盛り上がりました。小林教授はカナダにて研究が続けられるとのことでした。

化学 (事務局 穂積北中学校 森 社)

◇同窓会運営

- ・ 平成 20 年 3 月 16 日 (日) 運営委員会 (於: グランパレホテル)
- ・ 平成 20 年 3 月 20 日 (木) 同窓会報「かんきせん」第 20 号発行
- ・ 平成 20 年 6 月 22 日 (日) 運営委員会 (於: グランパレホテル)
- ・ 平成 20 年 8 月 10 日 (日) 総会・講演会・懇親会 (於: グランパレホテル)

* 総 会 : 事業報告・会計報告・監査報告、事業計画
役員改選【会長: 華井章裕, 副会長: 丹羽敏朗, 柘植良雄, 小柳欣也, 森 社, 桐村良昭, 事務局員: 佐藤伸幸, 白木和雄, 片田 誠】

* 講演会: 演題 原子・分子 マッキーノ

講師 マッキーノ研究楽会 代表 牧野英一氏
ビンゴからヒントを得て開発された原子・分子、そして化学を楽しく学ぶ「マッキーノ」の実践とその心について学んだ。

* 懇親会: 岐阜大学教育学部化学教室の利部伸三先生・佐藤節子先生もご出席いただき、会員の親睦を深めた。当日欠席された会員からも近況報告をいただき交流した。

◇研究会活動

・ 岐阜かがく教育研究会の活動

毎月 1, 2 回, 会員 5 ~ 10 名が岐阜大学附属中学校に集まり、指導案協議や教材開発・実験などを行い、幅広く学び合っている。

年末には、本研究会恒例の実践発表会と総会・懇親会を行う。

平成 20 年 12 月 27 日 (土) 実践発表会: 岐阜大学附属中学校, 総会・懇親会: グランヴェール岐山で開催予定。

◇現役学生との交流活動

・ 年度末に開催される「大学卒業論文・大学院修士論文発表会」と、いわゆる「追い出しコンパ」に同窓会からも参加し、学問研究に触れたり、教育現場の立場でアドバイスしたりし、学生と教員・産業界等の同窓生との交流を深めている。

生物 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 渡辺 寛樹)

(1) 理事会 年3回

機関誌「岐阜の理科」の編集方針検討, 名簿校正作業, 機関誌・名簿発送作業, 総会打ち合わせなどを行っている。

今年度は,

- ・平成20年2月に機関誌「岐阜の理科」No21の発送作業を行なった。
- ・平成20年5月に機関誌「岐阜の理科」No22の編集方針と第18回同窓会総会の打ち合わせを行った。
- ・平成21年1月に機関誌「岐阜の理科」No22の発送作業を予定している。

(2) 総会(隔年)

同窓会員の研究実践の交流及び, 親睦と最近の教育学部生物科の卒業研究報告会を兼ねて行っている。第18回総会が盛大に行われた。

[日 時] 平成20年8月17日(日)

[場 所] 総会 岐阜大学教育学部附属中学校

[日 時] 懇親会 二文字屋

[出席者] 33名

[内 容] 総会 事業報告

[講 演] 「アルゼンチンアリについて」

大垣北高校教諭 木野村 恭一 先生(23期)

[最近の卒論報告]

「ホトケドジョウの分布および生息環境と生殖周期」

恵那市中野方小 細江 達三 先生(55期)

「リンゴ栽培のS遺伝子型」

岐阜大学大学院 森田 純子 様(56期)

次回, 第19回総会は平成22年8月を予定

(3) 機関誌「岐阜の生物」

毎年1月に発刊, 全会員に郵送している。(本年度は第22号を発刊の予定)



地学 (事務局 美濃市立美濃中学校 山田茂樹)

総会など定期的な活動は行っていないが, 毎年, 12月末に有志による実践発表・研究会, および懇親会を継続的に実施しています。興味のある方は, ぜひご連絡ください。詳しい案内を差し上げます。

<連絡先>美濃市立美濃中学校
山田茂樹 Tel 0575-33-1110,1111

音楽 (事務局 同窓会会長 三羽幸夫)

(1) 正会員数 1,041名(新入会員13名。物故者を含む)

(2) 名誉会員(恩師)数 22名(生存会員15名。物故者7名)

(3) 各種会合の開催
本部役員会。事務局会。機関誌「間」編集委員会。

(4) 平成21年度新入会員(第57回)への同窓会説明会の開催
平成20年12月を予定
毎年名誉会長(研究室代表)及び研究の先生方のご協力により実施。4年生参加。

(5) 機関誌「間」(第38号年1回発行)と全会員への配付

(6) 本部役員会の開催
第15回 同窓会総会・懇親会の開催について 他

(7) 平成20年度 卒業演奏会出演者への激励
平成21年2月11日 サラマンカホール

(8) 卒業生(同窓会員)による演奏会への紙上後援

美術 (事務局 岐阜大学教育学部附属小学校 山本真司)

第57回 岐阜大学教育学部美術教育講座卒業・修了制作展のお知らせ

[日 時] 平成21年2月17日(火)～22日(日)

10:00～18:00(20日金曜日は21:00まで,
22日日曜日は, 16:00まで)

[場 所] 岐阜県美術館 県民ギャラリー 一般展示室B

※美術教育講座を卒業されたみなさんが様々な展覧会を開催して活躍されています。
展覧会情報がありましたら, 同窓会までお知らせ下さい。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

元気なOB・OGの方々からのたより
続いています 「ホッコ展」

萩原文美子(同窓生)

学芸学部美術工芸科で学んでほんとうによかった。70歳をこえても強い絆が保たれている。美を求める心があるかぎりフレッシュに生きることができる。一生の宝物である。

※昭和33年春修了及び昭和35年春卒業のメンバーで活動しています。

第26回
ホッコ展

結海 結海 染色 陶芸

**2008
5・9(金)～5・11(日)**

AM10:00～PM5:00

(最終日 PM4:00まで)

同窓会文化センター
ギャラリーB

石神 翠	藤原 亮男
堀谷 尚悠	兼松 義彦
小池 品晴	酒井 賢
櫻井 幹郎	高山 慎
野田 千鶴子	萩原 文美子
森嶋 亘	萩下 くに子
吉田 知足	

■事務局 同窓会連絡部5263 野田千鶴子

ぜひご来観お待ちしております
ご来観申し込みます。



「グループホッコ」のメンバー

▲ホッコ展の案内はがき

体育 (事務局 羽島市立桑原中学校 岡部好四郎)

- (1) 総会, 還暦祝いの会及び懇親会
 [期 日] 平成 20 年 6 月 14 日 (日) 76 人出席
 [会 場] ホテルグランヴェール岐山
 [総会内容]
 ①新入会員(16人)と物故者(3人)の報告
 ②19年度会務, 事業報告, 会計報告及び監査報告
 ③役員改選
 ④20年度事業計画及び予算案の承認
 ⑤大学の近況報告
- (2) 高野卓哉名誉教授叙勲祝賀会
 [期 日] 平成 19 年 11 月 24 日 (土) 100 人出席
 [会 場] ホテルグランヴェール岐山
- (3) 事業の内容
 ①平成 20 年 1 月から 6 月の間に役員会を 3 回, 常任理事会を 1 回開催して, 各種の事業について検討した。
 ②在学学生優秀選手の選出を行い, 2 月 11 日に表彰した。対象者 21 人にメダル及び表彰状を授与した。(役員 3 名出席)
 ③3 月 24 日に新入会員の入会式を開催した。(役員 3 名出席)

*ご不明な点, ご心配な点などございましたら, お手数ですが事務局までお問い合わせください。(岐阜大学教育学部附属中学校 電話 058-271-0320)

次回は平成 23 年度に岐阜地区で開催の予定です。よろしくお祈りします。

- (2) 研究大会
 同窓会の皆様を中心に組織されています, 岐阜県中学校技術・家庭科研究会県大会が来年度, 西濃地区開催される予定です。ご支援, よろしくお祈りいたします。



【旧太田脇本陣林家住宅】

技術・職業 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校 淀川雅夫)

- (1) 平成 20 年度同窓会総会
 3 年に 1 度の総会が 10 月 12 日 (日) に可茂地区で行われました。旧太田脇本陣林家住宅の見学後, 総会・懇親会を行いました。総会にて決定した事項を下記のようにお知らせ致します。
- ①役員について
 新会長に宮本英洋様(S39年卒)が就任されました。また, 副会長には田原尚武様(S42年卒), 伏屋敬介様(S46年卒)が就任されました。これまで会長を務めておられました山名忠様(S36年卒)には名誉顧問として今後もご指導をいただきたく思います。
- ②同窓会名簿について
 これまでは 3 年に 1 度, 同窓会名簿を発送させていただいておりましたが, 今回より希望者される方への有料(1冊 500 円)で配布させていただくことになりました。希望される方は次のように手続きをお願いします。
- *名簿を希望される方は 1 冊 500 円を下記の口座に振り込んでください。
 『ゆうちょ銀行 口座番号 3501981 岐阜大学教育学部技術・職業学科同窓会』
- *振り込みの際には「ヨドガワマサオ(H 8 ネン)」というように氏名と卒業年度を明記してください。これをもとに希望者と発送先を特定していきますので必ずお願いします。
- *振り込みを確認後, こちらで管理している住所に発送の手続きをさせていただきます。
- *名簿の発送については来年度 3 月末までには開始予定と考えています。

家政 (事務局 瑞穂市立本田小学校 谷村三奈)

- (1) 平成 20 年度の活動
 ・会員名簿の作成
 平成 20 年度版を作成し, 年次代表者に配付した。
- (2) 今後の活動
 ①「総会及び同窓会」
 次回は, 平成 21 年 8 月に開催を予定している。
- ②年次代表者会
 平成 21 年 4 月頃を予定している。
- 総会及び同窓会開催に伴い, 年次代表者, 役員, 世話役が集まり, 活動の方向や総会の持ち方, 進め方などについて, 検討する。
- ③同窓会名簿
 毎年, 会員名簿を作成し, 年次代表者に配付している。

英語 (事務局 (財)岐阜県イベント・スポーツ振興事業団 岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター 業務情報課 山下敦子)

3 年ごとに総会を開催。次回は平成 21 年度を予定。

平成 20 年度 各学科同窓会事務局

講座名	所在地	担当者	電話
国語教育	国語 〒 500-8482 岐阜市加納大手町 74 岐阜大学教育学部附属中学校	遠山健二	058-271-0320
社会教育	史学 〒 500-8488 岐阜市加納西丸町 1-73-2 加納小学校	堀 貴嗣	058-272-2028
	地理 〒 500-8482 岐阜市加納大手町 74 岐阜大学教育学部附属小学校	奥村雅人	058-271-3545
	法経 〒 501-5507 大野郡白川村平瀬 126-11 平瀬小学校	丸山靖生	05769-5-2100
	哲学 〒 501-6241 羽島市竹鼻町 1295 竹鼻小学校	田中 明	058-392-3000
数学教育	数学 〒 500-8252 岐阜市加納舟田町 9 加納中学校	岩井隆史	058-271-3577
理科教育	物理 〒 509-1431 加茂郡白川町黒川 2929 黒川中学校	鈴木雅史	0574-77-1102
	化学 〒 501-0236 瑞穂市本田 2000 穂積北中学校	森 社	058-327-6701
	生物 〒 500-8482 岐阜市加納大手町 74 岐阜大学教育学部附属中学校	渡辺寛樹	058-271-0320
	地学 〒 501-3734 美濃市東上野 2881-1 美濃市立美濃中学校	山田茂樹	0575-33-1110
音楽教育	音楽 [REDACTED]	三羽幸夫	[REDACTED]
美術教育	美術 〒 500-8482 岐阜市加納大手町 74 岐阜大学教育学部附属小学校	山本真司	058-271-3545
保健体育	体育 〒 501-6321 羽島市桑原町八神 3315-1 桑原中学校	岡部好四郎	058-398-8217
技術教育	技職 〒 500-8482 岐阜市加納大手町 74 岐阜大学教育学部附属中学校	淀川雅夫	058-271-0320
家政教育	家政 〒 501-0236 瑞穂市本田 938 本田小学校	谷村三奈	058-326-3417
英語教育	英語 〒 502-0817 岐阜市長良福光青穂 2070-7 岐阜県スポーツ科学部トレーニングセンター	山下敦子	058-295-6305
特別支援教育	治療 〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学教育学部	宮本正一	058-293-2203
学校教育	教育 [REDACTED]	中村正信	[REDACTED]

☆同窓会報 14 号をお届けします

学習指導要領が改訂されました。改訂に当たって、中央教育審議会が「教育内容に関する主な改善事項」として 7 つの項目を示しましたが、その筆頭に「言語活動の充実」を挙げています。国語科は言うに及ばず、全ての教師がその重要性を理解し、全教科・領域を通して指導計画に言語活動を位置付けるよう求めています。各教科を通して語彙を豊かにすること、各教科と関連付けて読書活動を推進すること、学校生活全体を通しての言語環境の整備を求めています。

改善事項の第三の柱に挙げているのが「我が国や郷土の伝統や文化の理解」で、またその第一項目に、「国語（母国語）は、我が国の文化の基盤を成すものであり、文化そのものである」とし、古典の暗誦、和歌・俳諧・漢文・物語・詩・伝記・民話に触れることを求めています。

好むと好まざるに関わらず進展する社会のグローバル化、急速に進化する IT 化の中で、一方で、人と人が温かくかかわり合って生きていくのが人間であること、長い歴史や文化を持つ郷土に生きる存在であることなど、忘れてはいけないものを強調しているものと思われます。

学習指導要領の改訂に伴い、学校現場には、多項目にわたる先取りの移行措置で慌しい対応が求められています。週 5 日制はそのままに、授業時数が 10% 増加するという、過密なスケジュールが押し寄せています。ゆとりと充実の両立は極めて難しいようです。

☆教育学部の動向について

本年 4 月より教職大学院課程が設置されました。学校改善コース、授業開発コース、教育臨床実践コース、特別支援学校コースから成り、学校現場に即戦力として貢献できる高度な資質能力を有し、新しい学校づくりの有力な一員、地域の中核、学校の中堅としてのスクールリーダーとなる人材の育成を目指します。本年度は 22 名の院生が入学しました。

平成 21 年度から教員免許更新制度が導入されます。免許取得後 10 年ごとの受講が義務付けられ、それがないと教員免許は失効します。本年度はその試行として、小・中・高合わせて 300 名ほどを対象に岐阜大学と高山会場で予備講座を行いました。県内私立大学との連携で行われるものですが、岐阜大学が中核となることは避けようがありません。次年度からは、毎年 2,000 名近くを受講対象者としなければならないわけで、施行を通して浮かんできた課題を基に現在検討を進めています。

平成 21 年度の岐阜大学開設 60 周年を機に、全学同窓会連合会（仮称）の設立が検討されております。さらに広い視野で母校の発展に貢献できるとよいと思います。
（文責 中島勝之）

編集後記

岐阜大学同窓会報
第 14 号

発効日 / 平成 20 年 12 月発行
発行者 / 中舎 美津男
発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒 501-1193 岐阜市柳戸 1 番 1
岐阜大学教育学部内
TEL・FAX 058-293-2344